

<b>Title</b>	再び使命感をもって（第7回ピア・スーパービジョン）
<b>Author(s)</b>	高橋, 成子
<b>Citation</b>	総合研究所 Newsletter, Vol.21-No.1, 2011.6 : 13-14
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=3074">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=3074</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

## 再び使命感をもって 高橋成子

### 1. 現在の仕事を志したきっかけ

私は現在NPO法人のグループホームで世話人として働いています。主に心の病や障がいをお持ちの方を対象としています。私がこの仕事を志したきっかけは、幼い頃に目撃した、知人（統合失調症）の衝撃的な行動に影響を受けたことが始まりではないかと思っています。以前から人の役に立ちたいという思いがあった私は、福祉を学ぶために大学に入学しましたが、入学後も私はその知人に対して拒否的な態度をとっていました。私の考えが変わったのは、精神保健福祉士（以下PSW）という職種があることを初めて知って専門科目を受講するようになってからです。それから私は徐々にその知人のことを理解できるようになっていきました。就職活動ではゼミの先生をはじめ諸先生方、キャリアサポートセンターの方にお世話になり、精神科クリニックに入社をしました。二年目からはグループホームで勤めるようになり、現在に至ります。

### 2. これまでに困ったこと、また乗り越えたこと

私はこれまでに燃え尽きに近い状態になったことが2度程ありました。最初に働いたクリニックでは私はデイケアの常勤スタッフになりました。最初に変だったのは、新人PSWの私がデイケアスタッフの中心的役割を担うということでした。それから、同じ職種の先輩がいない、ある程度のマニュアルもない、仕事量が多く、入院の手続きや地域会議の参加などでデイケアを離れるときや、



左から、コーディネーターの大島知子さん、報告者の紫藤彬子さん、秀村智香さん、高橋成子さん

看護師が処置室に行けばプログラムを一人で任されるときもしばしばという職場環境の中で、もとも一人で抱え込み、人の評価を気にする私は、誰にも相談できず、任された仕事は断れず、そのため仕事が終わらず、毎日終バスで帰るという生活が続きました。一年目の夏頃、体重は急激に減っていき、自分を責めて抑うつ状態になり、頭の回転が鈍くなって思考停止になることも多々ありました。自分に自信が持てず、周りの職員にどう思われているのか気になって、何か言われただけで責められているように感じる精神状態になっていました。そのような中、入社して1年が経ち、新年度からグループホームに異動になりました。始めの2週間くらいは特にすることがなく、今思えば有難い休養の時間になったと思います。

私が燃え尽きに近い状態になった理由は4つあります。①未熟なスキル（専門職として、社会人として）②組織力（仕事量、職場の処遇方針の曖昧さ、職場内で適切なスーパービジョンが受けられないこと）③サポート源（同職種の同僚や先輩がいない）そして、そこに④個人要因（問題の抱え込み、人の評価を気にする）が加わり長期化したことです。現在では、大変なこともあります、職場環境が変わり、対処法をいくつか身につけているのもあり、充実して仕事をさせていただいています。今回の振り返りでは、今後さらに自己覚

知をしていくことが大事であること、また新しい組織を作っていく力もワーカーにとって必要とされていることを確認しました。

### 3. 現在、悩んでいることや課題

①社会資源の幅広い理解と活用の仕方、②社会資源の開拓（入居者の希望や願望にそった支援をする際に制度の限界を痛感しています）

（たかはし・せいこ 精神科クリニックデイケアスタッフを経て、現在は足立区のグループホーム世話人として勤務、精神保健福祉士、2008年度聖学院大学人間福祉学科卒業）